

最優秀賞受賞にあたって

岡山県岡山市立福浜中学校

ふじ えだ しげ お
藤枝 茂雄



このたびは「第38回東書教育賞最優秀賞」をいただき、大変光栄に思います。審査に関わってくださったすべての皆様に感謝の意をお伝えするとともに厚く御礼申し上げます。

さて、今回論文にまとめた部活動改革についてですが、私自身、以前から「時間」に焦点を当てた取組には限界があり、むしろ教員サイドの「風土」へのアプローチが必要という課題意識を有していました。それを具現化するために校長として赴任した学校で「個業的運営から保護者参画による組織的運営へ」という非常にシンプルなパラダイム転換による改善行動に取り組みました。この改善行動はコロナ禍以前に始めたものですが、全国的なコロナ対策の取組の中で、改善の方向性が間違っていないことは次第に確信に変わっていきました。

取組の実践にあたっては、岡山市独自の中学校区連携コミュニティ・スクールによる連携体制が大きな力を発揮しました。取組1年目は個業的運営から派生して固定化された本校部活動の様々な問題を洗いざらい抽出し、保護者代表委員とともにあるべき姿を議論しました。当時のPTA会長もPTA組織改革と並行して積極的に部活動改革にも協力してくださいました。

また、部活動の地域移行という課題については、学校部活動から地域部活動への性急な直接的移行は難しいのではないかと、むしろ歴史上の産業資本成立の過程の中で中産的生産者層の

両極分解という過渡期的な形態が見られたように、昆虫で言うならば幼虫と成虫の間のサナギの形態をまず作って、それを順次増やしていくという手順が必要ではないかという発想に至りました。そのようなとき、令和4年度に新たに就任されたPTA会長は、地域の女子バレーボールチームを主宰している方であり、トントン拍子でいわゆる「休日B部活」、つまり、学校(A部活)が会場と用具を提供し、指導は地域クラブチーム(C部活)のスタッフが行うという形の「サナギ」的なモデル事業を立ち上げることができました。

上述のPTA関係の要職の方々との巡り合わせを含め、最優秀賞をいただいた今回の実践は、初めから終わりまで見えない力にずっと後押しされていたようで何か不思議なものを感じています。

教職大学院の充実等により、理論と実践の往還による教育実践論文の質的向上が著しい中で、現場が直面している課題に対する解決の着眼点と発想を前面に出したこの論文が最優秀賞をいただいたことは、全国の実務家の先生方にとっても朗報となり、実践意欲をいっそう高めることにつながると思います。

最後になりましたが、本校の部活動改革の取組に、令和元年度から熱心に協力してくださった関係者の皆様に心からお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。